



福井だより

ふくいからみらいへ

校長 吉田 明弘

給食週間です。

学校給食は明治22年(1910年)から始まりました。その後、昭和25年(1950年)から、1/24~1/30を全国学校給食週間として、学校給食の意義や役割について考える機会としています。

茨木市では、本年度は1/21(月)~1/25(金)を学校給食週間として、さまざまな取り組みを行っています。

福井小学校では、学年ごとに次のことにチャレンジしています。

1年…大型カルタ 2年・3年…ポスター 4年…標語 5年…詩 6年…作文



1年



2年



3年

(標語) 四年

おなかすく
食欲そそる
このにおい
泣いてても
給食食べたら
ほら元気
給食は
あそびと
元気のみなもとだ

25日(金)は、学校ごとに献立を選ぶ「うちの料理の日」です。福井小の献立は、「こもくはん」「ぎゅうにゅう」「あげき」ようざのすじようゆかけ「おおさかしろ」などこつぷのみそしる」です。

給食の時間になった
みんなで給食の用いをする
ようやく、給食が食べられる
みんなが楽しみにしている
わいわいしゃべりながらみんなで食べる
とってもとってもおいしい給食
また明日もたのしみにしている
給食の時間

給食の時間

五年

やさしい給食
給食は元氣を作る。
やさしい給食
給食は体を作ってくれる。
やさしい給食
給食は楽しさを作る。
やさしい給食
いつもやさしい心が
入っているから

やさしい給食

五年

おいしい給食 六年

私は毎日、一年生のときから六年間給食を食べてきました。毎日たくさんの給食と、数えきれないぐらいのメニューで給食の時間が楽しみです。私は、きらいな物がありますが、がんばって食べるようにしています。なぜなら、毎日作ってくれている調理員さんがいるんだと一年生のときに先生に言われました。なので毎日がんばって食べています。

そんな栄養まんてんの、給食はもう中学生になっても、高校生になっても食べられなくなるなんてかなしいなと思いました。もっと給食を食べたかったです。

六年間ありがとうございました。

調理員さんへ

ありがとうございます。いつもおいしいです。調理員さんが汗をかき、作ってくれた給食を、ぼくたちは無意識で食べていました。だからこれからは、感謝をこめて食べたいです。

調理員さんへ

五年

ふだんあまり話すことがないのに、ぼくたちにおいしくて栄養のある給食を作ってくれてありがとうございます。

これで、大人になっても強い体で、体調のくずれにくい体になるね。

給食を毎日作ってくれて、ありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。

命を使って生きている 五年

どれだけごはんが美味しくて、そうじゃなくても、命を使って作っている。それは、何の命だろう。

ぼくたちは、命を使って生きている。その命はどんな気持ちで亡くなったのか。

ぼくたちは、命を使って生きている。今日もごはんがやってきました。

みんなで「いただきます」

心があったまる

五年

心があったまる
心があったまる
調理員さんのやさしい気持ち
心があったまる
栄養のことをいつも考えてくれる
調理員さんのおかげで
心があったまる
いつもありがとうございます